

たけのこ

2020.5.11

第6号

幼児教育という営み

園長 平岩 ふみよ

この原稿を書いている五月四日、緊急事態宣言の延長が正式に決定されました。これまでに経験したことのない状況に向き合えなければならぬ時代が想像以上の勢いで私たちの社会・生活に押し迫っていることを強く実感しました。

幼稚園という場所は、どんな時も「人同士の関わりが生む経験」をどう保障するかが教育・保育の中心にあります。子どもと保育者、子ども同士、保護者と保育者、子どもと保育者と地域社会など、人と人とのつながりの中で紡ぎ出される関係

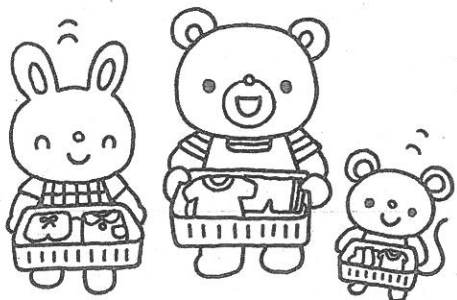
性をいかに深め広げていくかに力を注いできました。幼児教育の目的である「社会で生き抜く力の基礎を培う」ために必要なことは、人と人との関わりの中で得られる感覚です。子どもは五感をフル稼働して、全身でその感覚を感じようとします。みたり、きいたり、触ったり、ためしたり、お喋りしたり、手をつないだり、抱きついたりすることは日常茶飯事です。それらの経験が心身の奥深く刻まれる記憶になっていくのです。リアルな人間同士の関わりの中で生じる数多くの経験が「生きる」ことにつながっていくのでしよう。

しかし、今、その人と人とのつながり自体が制限され、可能な限り直接的な接触を避けることを余儀なくされています。「人と人とのつながり」を自然体で今までのように行うことに制限が掛かっています。その教育・保育現場。それが善か悪かと議論する余裕はありません。そのよう

な現実が目の前にある限り、それを前提にこれからの考えざる得ません。

竹の子幼稚園の今ある資源をフル回転して、知恵をふり絞る子どもたちの成長発達に必要な教育・保育環境づくりに努力する所存です。

七日、八日、九日の三日間に分散し、親子でご来園いただきました。決山の通信物をお渡ししました。じっくり、しっかりお読みいただき、ご理解とご協力をお願いいたします。引き続き、ホームページもご覧ください。一斉送信メールの登録にもご協力ください。



幼稚園の「玉葱の感想」

「たまねぎがあまくて

ふしぎだった？」



「おてっただいたよ

たまねぎ、きたよ」

「ぶらさげとと、こあるよ」

「あまくてやわらかくて

おいしかった」

先日、親子で玉ねぎを収穫したあとの感想です。みなさんおいしく食べていただけましたか？

